

話題の 十字路

米沢市南原地区に、人工芝のサッカーグラウンド三面を中核にしたスポーツ活動拠点を整備する「米沢スポーツ・ビレッジ」構想は、提唱団体の推進会議（種村信次代表）が展開した活動で約二万五千人分の署名が集まり、大きな反響を呼んでいる。半面、整備費用をどう確保していくかなど、実現に向けた課題は多い。市民の理解を得るには、サッカー施設に限定せず、市の生涯スポーツの推進拠点としての位置付けも必要となるだろう。

「米沢スポーツ・ビレッジ」構想

推進会議は、六月からの市まちづくり総合計画 提唱している。米沢南工三カ月間で集めた二万五千人分の署名簿を盛り込んでもう一つの狙い、構想の早期実現を求め、要望書を市に提出した。二〇〇八年度から

山新 期の技術力育成の面で立ち遅れが懸念されている。推進会議では、構想が実現すればこうした課題が解消されるほか、県内や東北レベルの大規模大会のイベント招致が可能となり、経済効果も大きいと訴える。

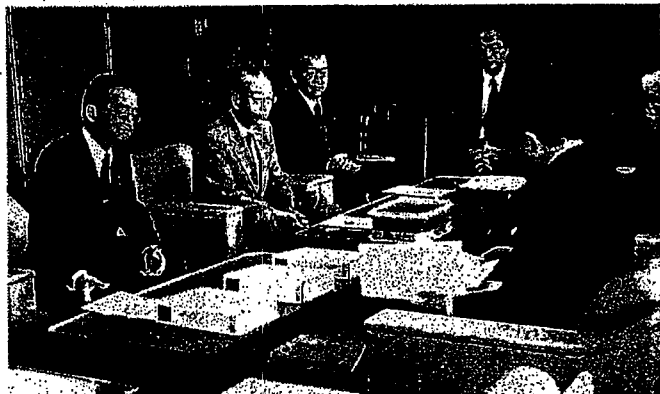
10/6 最大の課題は、厳しい市の財政事情の中で、整備費用をどう捻出（ねんしゅつ）するかだ。人工芝のサッカー場を整備する

ド三面、更衣室やシャワールームを備えたクラブハウス、照明などの整備市十六沼公園に二〇〇六年二月にオープンした

実現の鍵は多目的

ソフト面の戦略も必要

非常利活動法人（NPO） 置賜は県内で唯一、芝サッカー場（人工芝）三面、万円。現構想にあるすべての施設を整備するとならば、約六億七億円の費用が必要となる。特に少の整備費用は約二億八千



2万5087人の署名簿を添え、米沢スポーツ・ビレッジ構想の早期実現を要望する推進会議のメンバー（左）＝米沢市役所

用が必要となる計算だ。サッカー競技者だけが使用する施設では、巨額の投資に理解は得られない。天然芝よりも降雪地向きといわれ、高い使用頻度にも耐えられる人工芝のメリットを生かし、平日や夜間は軽スポーツなどで使用できるというように、生涯スポーツ

振興を目的とした多目的施設にできないものか。単に「バコモノ」整備に終わらせないために、構想段階であったとしても実現後を見据え、運営方法についても検討する必要がある。手法の一つとして総合型地域スポーツクラブによる自主運営方式も検討すべきだ。

（米沢支社・佐藤正則）